

自己評価結果シート【令和4年度】

1. 本園の教育目標

<p>○教育及び保育の目標や理念</p> <p>乳幼児の安定した生活の中で情緒の安定を図るよう努め、自己を十分に表現し発揮できるように配慮し、心身ともに豊かに成長することができるように努め、地域社会との交流や連携を図り、保護者に適した支援を行うと共に日々子どもたちの幸福の追求のために努力を惜しみません。</p> <p>○教育及び保育のねらいや内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びを通して、学ぶ事の楽しさを知り、一つ一つの体験の積み重ねの中で、興味関心を広げる。 ・自ら考え主体的に物事に取り組み、解決していく力及び自主、自立、協力、協調の精神を育む。 ・音楽、描画、身体表現、造形に親しむ中で、豊かな感性と表現力の芽生えを養う。
--

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針 教育及び保育の目標	教育・保育方針については、年1回の教育機会により、リフレッシュを設け、風化しないようにしている。また、子ども達にとって最善のことが提供できるよう、日々の職員会議や月例会議により指導案を試行錯誤している。今年はYYプロジェクトに柔軟性を持たせ、設定保育になりすぎないように自由度を高め、子ども達の豊かな感性や主体性が生まれるようなプログラムに変化していった。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の後半から新型コロナウイルスについては下火になって、年度明けには5類の予定だが、引き続き、園児の検温・手指消毒の徹底、おもちゃ消毒や必要に応じた子どものマスク着用を実施した。ただし、熱中症等、健康に影響を与える恐れがある場合はや、園庭で遊ぶ時は必要に応じてマスクを外した。 ・市内や地域、園内でコロナが流行りだした場合は、縦割り保育の中止やマスクの着用、手指消毒の徹底を必要に応じて強化した。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具点検や園内外点検を毎日実施し、事故を未然に防止するように努めている。 ・バスの安全対策が強化されたため、マニュアル類を整備し、職員研修を実施した。特に下車後の職員及び運転手の目視点検については徹底するように努めた。 ・月1回の避難訓練、消化訓練を実施し記録している。消防署立ち合いによる消火訓練指導はコロナの影響で実施出来なかった。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・給食室の食育担当者により、毎日食前に様々な内容の食育を実施している。 ・各クラス毎で野菜を種付けから実施し、水やりの大切さや栽培の大変さを身をもって体験し、野菜が取れた時の感動やありがたみ、いただきますの大切さを教育出来た。 ・もち米を田植えまでは実施出来たが、台風の影響により自分達が

	植えたもち米は不作であった。ただし、農家さんのご配慮により、無事だった田んぼの稲刈りさせてもらい、さらにはトラクターにまで乗車でき、貴重な体験をすることが出来た。冬にはそのもち米をつかったもちつき会を実施し、みんなで美味しく食べることが出来た。
子育て支援	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、開催できない時期もあったが、極力開催に努め、少しずつではあるが参加者も増えていった。次年度は新園舎で実施する予定なので、さらに参加者が増えるように、宣伝を強化していきたい。
教育・保育内容	YYプロジェクト4年目については、指導者の変更を機に、指導内容を変化させていけるように工夫した。具体的には、設定保育になりすぎないように、時間の使い方にある程度の自由度を設け、詰込み教育にならないようにした。特に読み・書き・計算については隙間時間で出来るように工夫し、空いた時間で自由な遊びを取り組めるようにした。
特別支援教育	特別な配慮を必要とする子どもについては、その子の成長に合わせた教育・保育が出来るように努めた。特に今年度になって自閉症の診断がついた子どもがいたため、研修を受講し専門知識の向上を図り、保育室の環境を見直して、落ち着いて過ごせるような環境設定を心掛けた。
職員の資質の向上	今年も会場での研修が少なかったため、WEB研修主体となったが、可能な限りで会場での研修にも参加した。 毎月1回のYY指導により職員の資質向上を図るとともに、クラス同士で見学をし合い、専門的な知識の拡充を図った。
その他	自由遊びを多く取り入れたが、自由遊びの質の向上を図るため、今後は自由遊びの知識拡充に努めていく。

3 今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み
教育・保育内容	今年もYYプロジェクトと並行して、子ども達の主体性や自由な発想を向上するために、自由保育の強化にも努めた。まだYYプロジェクトを柔軟に運用していくには時間がかかるが、設定保育から少しずつ自由度のある保育になるよう、職員の意識改革に変化が起こっている。無理なく変化に対応できるように今後も職員と協議をし、より良い保育となるよう努めていく。
安全管理	バスの置き去り事故を受け、園でも重く受け止め、他山の石とするよう教育を実施している。今後はバスの安全装置が義務化されるが、設置後も機械に頼ることなく職員の連携により事故が防げるように努めていく所存である。